高知県立文化施設事業評価委員会（平成 28 年度事業） 評価表 高知県立高知城歴史博物館

山内家資料等を適切に管理し、調査研究に基づいた高知の歴史や文化の魅力を広く伝え、かつ立地を活かし地域振興、観光振興にも寄与する

要求水準－収集・保存

山内家資料及び別途定める収集方針に基づき収集した高知県の歴史・文化に関する資料を適切に保存する

評価項目

（1）山内家資料を核として、近世から近代に至る高知の歴史を特色づける資料を適宜収集する

（2）資料を毀損、滅失することなく、開館までに高知城歴史博物館に移転、配架し、公開承認施設の取得に向けた環境整備、劣化防止等の処置を適切に行う

（3）資料保存修復に関する年次計画を策定し、それに基づき着実に資料の修復を進める

（4）資料相談窓口を設けるなど地域における資料保存活動への積極的な協力を行い、年1回以上の出張相談を実施する

状 況 説 明
（1）土佐山内家宝物資料館へこれまで寄贈・寄託されてきた資料全点について、高知県への移管準備を進めた。 山内家資料以外に過去に寄贈を受けた全 43 家 1,721 件の資料の高知県への寄託手続、寄託を受けていた 17 家 1,459 点の資料所蔵者全員との意向確認や承諾書の取り交わし、県へ提出する資料リストおよび概要書の作成などを行った。 また新たに寄贈・寄託を考える所有者とも協議を進め、資料調査を行うなど開館後の収集活動に向けた準備を行った。 （2）平成 29 年3月の開館までに、資料の移転、配架および環境整備の一連の業務を滞りなく行った。 ア 全資料を毀損・消失することなく高知城歴史博物館に移転、配架し、燻蒸を行った。 イ 移動用資料リストを作成し、資料に応じた梱包・輸送を行い、搬送時は学芸員が立ち会いをし、全資料を事故なく移動した。 （3）山内家資料のうち、特に展示活用が期待される美術工芸品 33 件の修理を行った。資料保存修復に関する中長期計画に基づき、かつ展示の現状を勘案して修理する資料を選定した。 ・絵画3件 「売貨郎」など中国絵画 ・刀剣7件 兼房など槍 ・染織品2件 陣羽織（羅紗地白黒段文様切継）、頭巾 ・能面 12 件 「白色尉」「石王尉」など ・漆芸品7件 雛道具・「朝顔蒔絵螺細沈箱」・甲冑2件「茶糸威二枚胴具足」、12 代豊資所用具足 （4）資料相談窓口として、資料保存修理室を準備した。出張相談を3回行った。 ア 資料保存修理室の運用準備 イ 出張相談 ・四万十市立郷土資料館改修事業に伴う保存環境等の助言 ・佐川町立青山文庫の改修事業に伴う保存環境等の助言 ・梼原町教育委員会からの依頼による同町役場文書、同町影野地地区阿弥陀堂経巻調査

評 価 案	理 由
A	・資料全点を高知県へ移管する準備を確実に進めた。 ・全資料を高知城歴史博物館へ移動し、適切に保存し、館蔵資料の国指定文化財に関し、文化庁から保管場所の移動許可を得ることができた。 ・資料保存修復の中長期計画に基づき、かつ展示の現状を勘定した多分野にわたる修理が行われた。 ・資料相談窓口を設けるなど地域における資料保存活動への積極的な協力を行い、年1回以上の出張相談を実施することができた。

要求水準ー調査・研究
資料の調査研究を進め、その成果を広く公開する

評価項目

（1）資料調査成果の公開計画を策定し、それに基づき資料目録（データベース公開を含む）、展示等、多様の手段により広く全国に発信する

（2）日本の近世史研究の拠点として認識されることを目指し、研究者、専門家との協働を含め、資料の調査、研究を推進する。調査研究の成果については、毎年研究紀要等の刊行物により公表し、歴史や美術に関する学会、研究会等を誘致するための具体的な活動を行う

（3）調査研究の成果は、上のほか展示、講演、講座等、多様な手段により公開し、これに係る図録、小冊子等の刊行物については年2冊以上作成する

（4）山内家資料の基礎データの整理等により、国の重要文化財指定に向けた協力を行う

状 況 説 明

（1） 資料調査成果を情報発信する基盤の整備を行った。

ア 閲覧室の整備

・閲覧室の運用計画の策定し、必要物品の調達や公開手続、申請書様式等の整備を行った。

・職員が「図書館等職員著作権実務講習会」へ参加・修了し、著作権法で定める「図書館等」に認められる資格要件をクリアした。

イ データベースの公開・充実

・既存の収蔵品管理データベースの整備を行った。

・山内家資料「歴代公紀」の全綱文が検索・閲覧できるデータベースを公開した。

ウ 情報発信

・過去に実施した高知城・城関係の調査事業の成果に基づき、高知城や城郭史を紹介する展示コーナーを整備した。

・NHK 大河ドラマ巡回展「真田丸」や巡回企画展「没後 150 年記念　坂本龍馬」、東京都写真美術館への資料の展示貸出（16　点）、研究目的による資料の閲覧対応（4件）、テレビ・出版メディア等への画像提供（70 件）を行い、収蔵資料の公開・情報発信を進めた。

エ 古文書の副本作成

・「幕末志士遺墨」3巻の副本を作成した。

（2） 歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究を行った。また、調査研究推進のために研究顧問制度を導入し、歴史・美術史の全国的な調査研究展開の土台を作ることができた。

ア 調査研究活動

・館外所在山内家・土佐藩関係資料の調査（京都・兵庫・東京および県内4箇所）

イ 館外との協働

・虎屋文庫との合同による赤岡西川屋資料調査、研究成果として「山内家資料　生菓子図案集」の図版・解説入り全文紹介冊子を刊行した。

・高知大学との合同による土佐神社の御蔵整理作業

ウ 学会・研究会活動

・東京文化財研究所主催の研究会「染織品の保存と展示」への参加

・甲冑研究会「近世大名家における当世具足の研究」への参加

・大名道具収蔵館研究集会「刀剣と鉄砲」への参加

・四国ミュージアム研究会への参加、パネリストとして高知城歴史博物館整備に関する事例報告および館内バックヤードツアー対応

（3） 総合展示パネル類や大型映像等の展示制作を行い、以下の刊行物を作成、講演・講座を行った。

ア 刊行物

・山内家資料を総合的に紹介する図録『土佐藩主　山内家資料の世界』

・山内家資料の名品を紹介する図録『山内家伝来の大名道具』

・山内家資料の中でも特に人気の高い雛道具を紹介する図録『山内家のひな人形とひな道具』
・維新博特設会場内で配布する小冊子『大政奉還への道』

イ　講座・講演

館の主催による講座類のほか、外部団体より依頼を受け学芸員が講師として出張講演した。

・「高知文学学校」研究科
・徳島城博物館「美術アカデミー」における講演
・高知市観光ボランティア研修「幕末の土佐」

（4）文化庁調査官と学芸員による、山内家資料の国重要文化財指定に向けた資料調査を1回行った。（5月 31 日から6月3日までの4日間）

評　価　案	理　由
A	・情報発信のための、設備・データベースを整備し、可能なものから公開を開始するなど、多様な手段で情報発信を行うことができた。 ・各種研究会等への参加を通じて、全国の学芸員や専門家との交流・情報交換を進めたことが認められる。 ・開館に合わせた刊行物を用意することができ、また、館主催の講座や出張講演が行われた。

要求水準ー展示･公開
収蔵資料等による展示活動及び関連事業により、歴史や文化に対する関心を深める

評価項目

（1）山内家資料を核として常設展、企画展を開催し、年間 10 万人以上の観覧者を目指す

（2）歴史や文化に対する関心を高めるとともに、公開承認施設の承認に必要な実績を重ねるため、他機関が所蔵する国宝・重要文化財等の公開に取り組む

（3）ワークシートやデジタル機器類を用いた展示解説、関連行事等を企画展ごとに2件を目安に実施し、来館者の理解が深まる取組を充実させる

状 況 説 明
（1）３月４日に開館し、常設展、企画展に加えて特集展を開催した。（観覧者　29,146 人） ア　常設展 土佐藩の歴史 イ　企画展 未来へひきつぐ美とかたち ウ　特集展 海援隊発進！～坂本龍馬のかけぬけた時代～ （2）開館に向け、資料動線計画や警備・消防計画など、文化財の安全な公開・保存に適した基本環境の整備を行った。 ア　館蔵の指定文化財の展示を行い、実績を残した。 ・国宝「古今和歌集巻第廿（高野切本）」 ・重要文化財「長宗我部地検帳」 ・高知県指定文化財「森田久右衛門江戸日記」 イ　新発見の坂本龍馬書状および坂本龍馬記念館所蔵の龍馬書状 2 件を借用し、展示公開した。 （3）企画展関連行事を3件行い、デジタル機器を用いた展示解説として、多言語音声ガイドを制作した。また、団体等の依頼に対応して、学芸員による展示解説を行った。 ア　ワークシート ・小学生向けワークシート「はくぶつかんノート」の制作・配布 イ　印刷配布物 ・展示資料・音声ガイドリスト（通史・特集・企画各展示室用各１枚） ウ　企画展関連行事 ・記念講演会　島谷弘幸氏「大名家のコレクション―古今和歌集巻第廿(高野切本)を中心に―」 ・学芸員によるスライドレクチャー（毎週日曜日開催、4回開催） ・展示室・Web 連携投票イベント「一番かぶってみたい兜はどれ？」 エ　展示解説 ・解説員による案内対応のほか、団体等の依頼に対応しての展示解説にも対応した オ　デジタル機器類を用いた展示解説 ・通史・特集・企画展各展に対応した音声ガイド（日・英・中（簡・繁）・韓・タイ・土佐弁） ・子ども向けデジタルコンテンツ（すごろく）の制作 ・子ども向けメディアテーブル（高知城紹介）の制作 ・「幕末志士デジタル年表」の制作 ・映像展示「はやわかり　幕末維新」の制作 ・歴史ナビゲーター（「高野切」「甲冑」「能と茶」）の制作 ・大型映像（土佐藩の歴史・高知城紹介・山内家資料紹介・多言語対応版・子ども向け・維新博対応「大政奉還への道」）の制作

評　価　案	理　由
A	・展示室の運営方針整備、各種展示用具・備品類の準備、展示解説パネル類の制作など、多種多様な業務を遅延なく進めた。また、県からの総合展示室Ⅱを維新博に対応した展示へと変更する要請にも速やかに対応し、結果として、1ヶ月で目標を大幅に上回るペースの観覧者数を記録したことは評価できる。 ・文化庁や東京文化財研究所等からのアドバイスを受け、開館後の人・物の動線計画や施設運用方針の具体化を進めた。 ・国宝・重要文化財を展示公開することができた。 ・子どもから大人、外国人を含めた幅広い来館者に対応できるよう各種コンテンツを開館までに準備することができた。

要求水準ー教育・普及
多様な学びのあり方に対応する教育普及活動を充実させる

評価項目

（1）幅広い年代が参加できる歴史や文化に親しむ講座や行事を企画し、講座等の種類として年間で6件以上実施する

（2）子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させるため、教材研究への協力、出前授業、校外学習等を通じて初等教育、中等教育との連携を強化し、年間で 10 回以上の児童生徒と関わる事業を実現する

（3）博物館実習生やインターンシップの受入を行うなど、高等教育機関との連携を深めることにより、次世代の担い手の育成を支援する

状 況 説 明

（1）教育普及活動としての企画・行事・講演を実施した。

ア 継続講座

・高野切講座 （2クラス・18 回・396 名参加）

・高野切講座特別授業「雅楽―平安時代の息づかい―」（44 名参加）

・高野切講座受講生作品展 （504 名参加）

イ 開館プレ企画ならびに開館記念講演会の開催

・子ども向け行事 「わくわくたんけん高知城」の開催 （6回・71 名参加）

・一般向け行事 「門松講座」（27 名参加）

・開館記念講演会 （4回・305 名参加）

・ビデオ上映による講演会 （3回・118 名参加）

ウ 小中学生向け博物館利用案内の充実

・小学生向けの博物館利用案内パンフレット『おたのしみ手帳』を作成し、高知県内のすべての小学生に配布した。

・ホームページ内に、小・中学生に博物館の活動内容を紹介する「じょうはくキッズページ」を特設した。

エ 体験道具類の整備拡充と体験コーナーの設置

・幅広い年代の方に歴史や文化に興味を持ってもらうため、体験用道具類を整備した。

鎧兜の甲冑セット（大人用・子供用各 1 セット）

山内容堂の陣羽織（大人用・子供用各 1 着）

変わり兜（4種類）

・国宝高野切の水書セットなどを作成した。

オ 外国人向け普及冊子の作成

・博物館の紹介はもちろん、県内の歴史や文化の魅力を主に写真で紹介する外国人向けパンフレットを作成。（日・英・中（簡・繁）・韓の各版を作成し、関係各所へ配布）

（2）教材研究への協力、出前授業、校外学習等を通じ、児童生徒と関わる事業を行った。

ア 教育委員会との連携・協力

・『高知県の歴史』副読本の編集・執筆に協力 （県教育委員会高等学校課）

・本山町教育委員会編集の小学校3・4年生向け社会科副読本の作成にアドバイザーとして協力。成果を博物館展示室における展示構成・内容等に反映。

・講演会「博物館と学校教育」の開催 （50 名参加）

イ 教員の研修会・学習会への協力

・県教育委員会、教育センター主催の研修会「教科研究センター講座（専門講座）」で、博物館の利活用ならびに幕末維新の土佐の歴史について講義を行った。学校現場の様子を踏まえた博学連携のあり方について意見交換を行った。（10 月・11 月に各1回）

・高知県高等学校教育研究会社会科現代社会部会・政治経済部会の見学を受け入れ、意見交換を行った （14 名参加）

ウ 学校関係者向け博物館利用案内の充実

・ホームページ内に、「学校関係のみなさまへ」というページを特設し、情報発信して行くための準備を進めた。また、教員向けの博物館利用案内パンフレットを作成した。

エ 団体見学の受け入れ

・開館1ヶ月で、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、計 21 校 906 名の児童・生徒を受け入れた。ホールで映像視聴とミニ解説を行い、展示室で学芸員解説つきの見学を行った。

オ 小中高校への出前授業の実施

・県立高知北高等学校　特別講座　通年で 25 回出講 （各回 25 名参加）

・北高校出前授業　日本の歴史文化の紹介（茶道体験ならびに刀剣の分解解説）（30 名参加）

・高知市立第六小学校　高知城見学の案内役（高知城の解説）（35 名参加）

・同市立介良小学校　和本作りの体験講座 （15 名参加）。

カ 教材研究・教材資料の作成準備

・山内家資料をはじめ、高知県の歴史に関する各種資料を利活用した教材資料の作成に向けた準備をした。

キ 学芸員資格課程との連携

高知大学の博物館学芸員資格課程との連携事業（総務・調査研究・教育普及・地域連携の４つの部門）を行った。

・総務部門：ミュージアムショップならびに喫茶の運営・メニュー・あり方等について、学生と意見交換（7回　12 名参加）

・調査研究部門：高知市内の個人宅に所蔵されている資料の整理・調査を実施（2回　8名参加）

・教育普及部門：博物館周辺の地域の見どころを博物館的な視点で紹介するマップの作成（5回　5名参加）

・地域連携部門：高知市一宮の土佐神社が所蔵する資料の調査・整理を実施（4回　10 名参加）

評 価 案	理 由
B	・時期に応じたプレ企画を開催し、一般・学校・子供・外国人向けの普及活動の基本方針及びそこで使用する道具類の充実を図ることができた。 ・授業と副読本によって学校現場への関与・協力が行われている。学習シートの充実や、関係者との意見交換等を行い、子どもたちが歴史や文化に触れる機会の充実に努めたことが認められる。 ・高知大学の博物館学芸員資格課程と、総務・調査研究・教育普及・地域連携の４部門において、連携事業が実施された。

要求水準ー地域振興、観光振興
地域振興、観光振興を視野に入れた事業展開を行う

評価項目

（1）歴史文化情報の提供や職員の派遣による地域の文化活動への協力により、県内各地の歴史や文化による交流を支援する

（2）地域の歴史・文化をテーマとした展示及び関連行事の準備を進め、5年間のうちに開催するほか、観光客の受入体制の充実を図り、県内外の文化施設等とも連携して県内各地への人の流れを生むような情報提供に努める

（3）周辺文化施設及び高知市中心部の諸団体と協力し、連携企画の実施、新たな行事の創出の提案等、博物館周辺エリアにおいて歴史や文化を切り口とした観光資源の充実に努め、回遊人口の拡大を目指す

状 況 説 明

（1）歴史文化情報の提供準備や地域の歴史座談会・講演

ア 「小村データ」(高知県内 1,000 ヵ所以上に及ぶ江戸時代の村単位)を作成し、閲覧室で公開するための整備を行った。

イ 高知市一宮地区で開催された歴史座談会に講師を派遣し、同地区が編集・発行した『郷土地理』の編集に協力した。

ウ 高知市鴨部、高知市七ツ渕の両地区で開催された学習会で、地域の歴史に関する講演を行った。

エ 地域関係の事業内容を紹介するパンフレット『地域の歴史と文化の？に高知城博が答えます！』を発行し、県内市町村や文化・観光施設等へ配付した。

オ ホームページ内に、地域関係者に向けた「地域連携」のページを設け、地域関係事業の情報発信を開始した。

（2）地域の歴史・文化をテーマとした事業

ア 地域資料への調査協力

・安田町中山地区の行政文書の調査に協力

・高岡郡内の文化財保護委員の研修会にて講演した。（60 名参加）

・開館プレ企画の「地域講座」では、安田町を会場に「地域社会と歴史資料」をテーマとして講演を行った。（40 名参加）

・地域資料の保管施設としての休廃校利用を考えるためのシンポジウムを開館プレ企画として開催した。（50 名参加）

イ 地域歴史文化の調査研究

・地域の歴史文化の調査研究活動として、『地域記録集　土佐の村々』というパンフレットを継続して発行している。平成 27 年度末に発行した記録集について、取り上げた地域である大豊町立川地区にて発刊報告会を開催し、あわせて立川地区の見学会も開催した。（90 名参加）

ウ 地域の歴史文化展の開催準備

・仁淀川流域を対象とした基礎調査を開始し、流域に関する歴史・文化・民俗誌的な文献等の整備を行った。

エ 地域連携の体制準備

・県内市町村との連携・協力を体制的に進める準備作業として、地域振興・観光振興関係部署との意見交換を行った。

・各市町村や各文化施設の広報用パンフレット・チラシ類を当館に送付してもらう体制の整備を開始した。県内各地の地域情報・観光情報を発信する「高知県情報コーナー」を設置し、これらのチラシ等を配架した。

・高知県情報コーナーの大型映像ならびに 3 階幕末維新展示室のタブレット映像は、各市町村の協力を得て作成したものであり、地域との連携・協力の成果の一つである。

・県内最大の連携組織「こうちミュージアムネットワーク」の事務局をつとめた。

・江戸時代を主要なテーマとして活動する歴史系博物館による連携組織「土佐藩・土居関係資料所蔵博物館連携協定」の事務局をつとめた。
・明治維新 150 年の動きに関する連携組織「明治維新 150 年高知県ミュージアム連絡協議会」の事務局をつとめた。
・明治維新 150 年の協議会では、『幕末維新の土佐　探訪図会』の改定増刷、『幕末維新の土佐人物紹介』の新規制作を行った。

オ　高知市中心部との連携・協力
・高知市中心部の関係者との意見交換を積極的に行った。これら意見交換の成果も踏まえ、当館 1 階には城下町情報コーナーを設け、城下町の歴史や見所、高知城や商店街で行われる催事等を映像や印刷物で紹介している。
・商店街が行う「土曜夜市」に毎週（計 5 回）参加し、歴史体験コーナーのブースを出した。（1回約 300 名参加）
・開館プレ企画の「地域講座」では、高知市中心部の旧城下町エリアについて考える会を開催した。（60 名参加）
・実習室にて、日曜市で販売されている食材を活用した日曜市料理教室を開催し、子供から大人までの参加者を得た。講師は県域全体の食の関係者からの協力を得ている。（20 名参加）
・文化施設を中心とした連携として、「高知市中心部文化施設の会（通称：お城下ネット）」という連携組織を起ち上げ、同会の発足記念行事として、講演会を県立文学館で、ワークショップを高知城追手門前にて開催した。これに加え文化施設マップや催事カレンダーをまとめた「お城下文化手帳」の編集作業を行った。
・高知県地域観光課主催「土佐の観光創生塾」（全 6 回）に参加し、宿泊・交通・旅行などの観光分野に携わる関係者との交流を深め、創生塾の活動として実施した高知市中心部周遊のモニターツアーへの協力も行った。

カ　歴史文化情報の提供
・高知県計画推進課からの依頼を受け、浦戸湾遊覧船の船内ガイドについて関係者との協議・検討を行い、ガイド内容を提供した。
・江戸時代に城下の風流を飾った花台や、土佐藩恒例の正月行事であるのり初め等を題材に、歴史や文化を活かした地域振興・観光振興的な大規模催事の開催について、商店街や商工会議所等の関係者と協議を行った。

キ　各種文化団体の誘致準備
歴史や文化を活かした地域振興・観光振興に関して参考になる第 35 回全国城下町シンポジウム、第 14 回全国藩校サミットに参加した。

評　価　案	理　由
A	・地域資料の保存調査の重要性を啓発するため、積極的に活動を展開し、地域記録集などで成果を還元したと認められる。 ・県内の市町村や各文化施設および地域や観光諸団体との連携を深め、幅広い情報を情報コーナーなどで積極的に提供することができている。 ・高知市中心部との連携もはじまり、日曜市料理教室等の事業が開始されている。

要求水準ー広報

評価項目
広報計画に基づき、館のホームページや広報誌、チラシその他メディア等も駆使した効果的な情報発信を行い、ホームページアクセス数やアンケート調査等を参考に、常に広報効果の検証を行う

状 況 説 明
・開館に向けた広報を、幕末維新博の広報との連携をしながら計画、実施した。 ・新しく開設したホームページおよびプレ広報誌、開館告知チラシやパンフレット等にて、開館前から館の利用案内、見どころ、収蔵資料の魅力や事業内容等を情報発信したことに加えて、プレ企画や、開館記念事業、開館展示等の情報を随時発信した。 ・新聞広告、雑誌特集記事・広告、テレビCM、交通広告、ラッピング電車などの各種媒体を組み合わせて効果的な情報発信を行った。 ・その他、幕末維新博と連携して首都圏をはじめとした県外の新聞、雑誌等へ情報提供を行い、全国への情報発信に取り組んだ。 ・ホームページのアクセス解析による効果測定をもとに、効果的な情報発信を随時検討、実施している。

評 価 案	理 由
A	・幕末維新博メイン会場であり、県の観光振興部との連携による広報を行うことができた。 ・入館者数が多いことも広報活動の結果と評価することができる。

要求水準－施設管理
施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目
（1） アンケート等により入館者からの意見を積極的に収集し、清掃や警備、設備管理その他館内外の利用環境に関する効果的な改善策を実行し、利用環境の向上に努める

状 況 説 明
・館内の数カ所にアンケートボックスを設置し、アンケートを収集している。収集したアンケートは定期的に集計し、職員全体に内容を周知させており、また、対応が必要な内容については館内で協議し、利用環境の向上に努めている。

評 価 案	理 由
B	アンケートを来館者から積極的に収集し、清掃や警備、設備管理その他館内外の利用環境の向上につながると判断した意見は館の運営に反映させるなどして、適切に活用・処理をすることができている。 特に、来館者の安全に関わる内容については、早急に対処・改善するよう努めている。

評価項目
（2） 安全な利用環境を保ちながら、光熱水費を含む維持管理経費については年度ごとに分析を行い、経費削減に取り組む

状 況 説 明
・光熱水費についてはデータの蓄積を開始しており、今後分析をしていく。 ・その他、各設備の保守管理については、入札を行うなど最適な業者との契約を進めている。

評 価 案	理 由
B	適正な維持管理に努めていると認められる。

評価項目
（3） 観覧者、講座等利用者確保のほか、貸出施設についても利用を促進することで収入を確保し、管理費や事業費の削減と合わせ収支のバランスを維持する

状 況 説 明
・特に開館に向けての広報活動に力を入れ、展示や講座の日程・内容等を発信した。 結果、3 月のオープン月には、29,146 人の観覧実績となった。（3月4日開館） ・講座等利用者についても、定員を超える申し込みがある講座があった。

評 価 案	理 由
A	年間目標 10 万人に対し、1ヶ月で 29,146 人の観覧者数実績があり、見込みを上回る状況であることは評価できる。 ・広報活動の成果が出ていると認められる。

総合評価

評　価　案	理　由
A	・開館準備をしっかりと行い、資料を高知城歴史博物館へ 1 点の瑕疵なく移動することができた。 ・企画展、特集展を開催し、観覧者数は 29,146 人（3月、28 日間）と1ヶ月で目標を大幅に上回るペースを記録した。 ・ワークシートやデジタル機器を使い、観覧者の理解を深める工夫をしている。 ・地域に根差した講演、講座が多数行われた。 ・出前授業や副読本の作成など、学校現場との連携・協力が行われている。 ・県の観光振興部と連携し、多彩な広報が行われている。 多くの面で要求水準を上回る成果があったと認められる。 以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。

評価基準

「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。

「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。

「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。

「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。